以

六月十日

天保九年

四七 一此度御府内市中ニ有之候仮道場ニ而不許何方住居
雑説有之候者遠方之儀故右様不容易義ニ付而ハ以来右
年頃より住居いたし候者右之通ニ相聞候ニ付而ハ寺社奉行
職并寺院ニ而も右新地ニ而みたりニ造営致し候事ニ而此准
ニ付候浄門主ゟ達之外深く浄土宗ニ付其旨可被相心得
ニ而右様之儀無之様厳重ニ可被申達候

六月

長崇院

一此九日浅草本願寺掛所新八役寺橋内門前拾備門ニ而手疵
負相果候ニ付右本願寺門跡家来ゟ右死骸此度川添方ニ而清右
衛門相渡候

四八 一此九日夜四時過浅草本願寺新八兼慈雲院弟子香川
頼母ト申者ゟ申之のし也本願寺内門掛場内外浅草不
前ニ而負手疵候ニ付右御門当番ニ而浅草本願寺取押置
御届申候ニ付取調候上御届出月日付ニ而左浅草了仙新八坂本和
果候ニ付右相掛り年寄共右死骸此度川添方ニ而為取片付ニ而
以後右ニ而申達候ニ付

六月

松平右近将監

四九 一麻布一ノ橋発心寺道心疫神不寄
芝松本町ニ伊勢屋喜兵衛と云酒商売の売場ニ佐太郎